

# 英語

## 外国語によるコミュニケーションにおける 見方・考え方を働かせた学びの過程を！

外国語科における「見方・考え方」は、「外国語で表現し伝え合うため、外国語やその背景にある文化を、社会や世界、他者との関わりに着目して捉え、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて情報を整理しながら考えなどを形成し、再構築すること」であると学習指導要領に示されています。学習指導要領の趣旨を実現するために、生徒の「見方・考え方」を確かで豊かなものにする学びの過程を構築することが大切です。



県中教研 英語部 全県部長  
上越市立八千浦中学校

校長 中野 博史

### 外国語教育における学習過程

以下のような学習過程の中で、学んだことの意味付けを行ったり、既習の知識や経験と新たに得られた知識を言語活動で活用したりすることで、「思考力・判断力・表現力」を高めていきます。

① 設定されたコミュニケーションの目的・場面・状況などを理解する。

目的：コミュニケーションを行うことで達成しようとする目的は？

場面：話し手や聞き手を含む発話の場面は？

状況：コミュニケーションを行う相手との関係性やコミュニケーションを行う際の環境は？

② 目的に応じて情報や意見などを発信するまでの方向性を決定し、コミュニケーションの見通しを立てる。

③ 目的達成のため、具体的なコミュニケーションを行う。

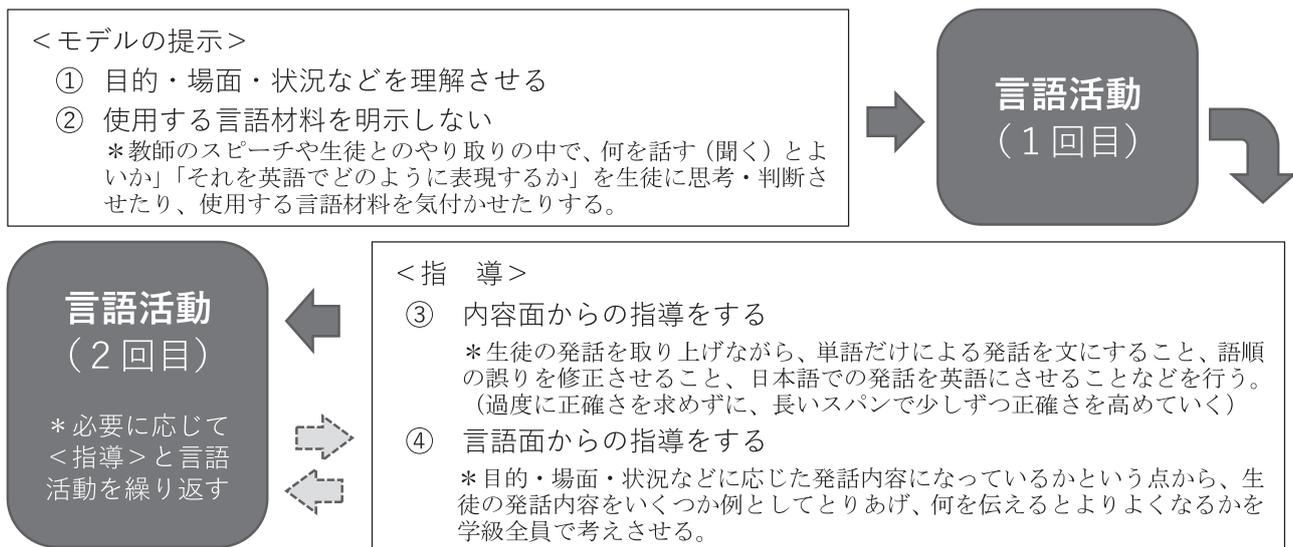
④ 言語面（英語使用の正確さ）・内容面（表現内容の適切さ）で自らの学習のまとめと振り返りを行う。

### 深い学びにいたる言語活動の工夫

言語活動は、実際に英語を使用して互いの考えや気持ちを伝え合うなどの活動が基本です。

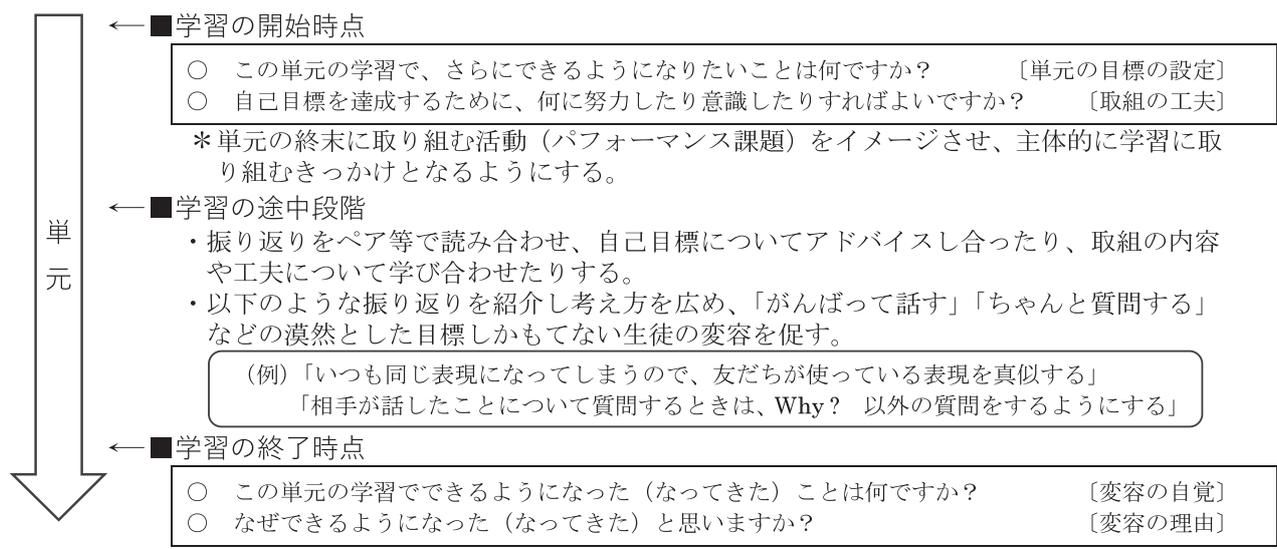
言語活動を実施する際は、小学校で学んだ語彙・表現などを意味のある文脈の中でコミュニケーションを通して繰り返し触れることができるよう、内容や活動方法を工夫し、生徒の言語運用能力を高めていくように指導することが大切です。また、生徒がコミュニケーションを行う目的や言語の使用場面を意識して活動することができるよう、どのような言語活動を行うのかを明確に示し、その活動の中でいかに文法が使用されているかに着目させて、その文法の必要性や有用性を実感させた上で知識を活用させたり、繰り返し使用することで当該文法事項の規則性や構造などについて気付きを促したりするなどの指導をすることが大切です。

以下に、単位時間における言語活動の基本的な流れを紹介します。



## 生徒の自己調整を促す指導の工夫

生徒自らが学習の見通しを立て主体的に学習に取り組むことで、言語活動の質の高まりによる自分の考えの変容について、自らの学習のまとめや振り返りを行うことが促されます。以下に、効果的な問いかけの具体例を紹介します。



<引用・参考文献>  
『中学校学習指導要領(平成29年度告示)解説 外国語編』文部科学省 平成29年7月  
『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 中学校 外国語』文部科学省 国立教育施策研究所 令和元年6月

## 英語 重点目標

学習指導要領(外国語)の趣旨を正しく理解し、その目標を実現する取組を着実に推進する中で、適切な言語活動を通して、英語で目指す資質・能力を確実に育成する。

- CAN-DOリストから単元の学習到達目標を設定・共有し、どの生徒も無理なく目標に迫ることができるように指導内容をバックワードで配列して行う指導を徹底する。
- 学習指導要領に示されている4技能5領域における言語活動例を視点に、折に触れて自校の指導の現状をチェックし、領域に偏りがなくバランスよく指導する。
- 即興的な表現力を育む言語活動を継続的に授業に位置づけ、進歩を実感させながら生徒の主体性や学習意欲を維持・増進させ、自立して学び続ける生徒を育成する。

# 英語 <上越地区／上越市中教研>

## 「3年：The Great Pacific Garbage Patch」

研究主題：自分の考えや思いを英語で伝え合える生徒の育成

開催日：11月2日（木）

会場校：上越市立八千浦中学校

公開：1学級

授業者：田中 健昭

指導者：上越教育事務所 指導主事 桑原 正博 様



研究推進責任者  
上越市立大潟町中学校  
鈴木 有紀子



教科・領域担当者  
上越市立八千浦中学校  
田中 健昭

### ・こんな深い学びの姿を目指します・

「自分の考えや思いを英語で伝え合える生徒」の育成を目指します。生徒が生き生きと英語でコミュニケーションを図ろうとしている姿が具現化できるように、普段の授業の中でポイントを意識して授業づくりを行います。他者との関わりの中で、聞いたり読んだりして理解したことを、生徒自身が目的・場面・状況を意識しながら話したり書いたりして表現する体験的な言語活動を繰り返していきます。

### ・深い学びにいたるポイント・

#### ポイント1

#### 単元の明確な目的（ゴール）の設定と共有

教師と生徒が、単元のゴール（目指す姿）を共有し、生徒に授業の学びの見通しをもたせます。

目標、タスク、評価、目的達成までの流れ等を生徒に事前に示し、どんなことを頑張りたいか生徒自身の目標を立てさせることで主体的な学習を促します。

生徒は、毎時の授業の振り返りで、自己の学習状況を確認したり、自己調整を図ったりしながら、課題解決を目指します。

#### ポイント2

#### 協働的に学ぶ場の設定

Small Talk等、生徒が即興でやり取りしたり、表現力を高めたりすることを大切に学習活動を設定します。教師は、生徒の発話を整理・修正したり、個別に支援したりするなどの更なる手立てを工夫します。

#### ポイント3

#### ICT機器を活用した学びの蓄積

RetellingやPresentationなど、普段の学習活動の中でICT機器を積極的に活用することで、多くの英語に触れたり、自分自身のことについて伝える表現を蓄積し自己の変容を確認したりすることができます。

## 単元(題材)の様子

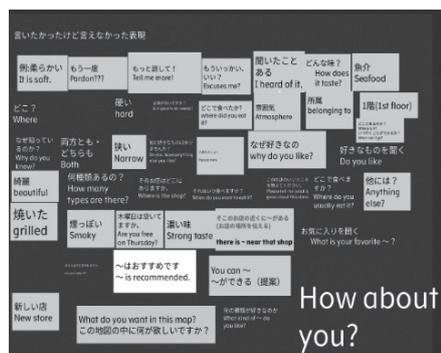
① 単元の最初に「単元のゴール」を確認します。また、各授業の最初に「△△のために、○○について詳しく説明できるようになろう」など、言語活動の目的・場面・状況を確認させ、学習を価値付けします。それにより、振り返りの場面で、生徒はループリックに照らし合わせ、自分の現在地を確認しながら、ゴールに向かって進んでいきます。

ポイント1

②～⑦ 帯活動のミニディベートでは、生徒にテーマを示し、AかBのどちらかの立場を選ばせ、1分程度ペアで互いの考えを伝え合う活動を設定します。生徒は活動中、互いに意見を1つ言うたびに、タブレット端末でチェックを付けます。チェックした内容を確認し合うことにより、自分の考えや表現が相手に伝わった度合などを視覚的に理解し、活動することができます。また、生徒が使用したい表現などは、授業前に把握し、授業の中で黒板やワークシートで共有するなど工夫します。



ポイント2



②～⑦ Small TalkやRetellingでは、生徒が多様な表現に触れられるよう、画像共有アプリを用いて「言いたかったけど言えなかった表現」を集約及び共有する場を設定します。また、活動後に自分のパフォーマンスを振り返り、改善につなげることができるよう、カメラアプリを用いて録画・録音したり、メモアプリを用いて自分が使った表現を蓄積したりする活動を位置付けます。

ポイント3

## 研究会

⑦ 研究会では、ミニディベートとRetellingを主な活動として行う予定です。自分の考えや思いを英語で伝え合おうとしている生徒の姿をご覧ください。

3年生 Program 6 “The Great Pacific Garbage Patch” の題材を使い、授業公開をする予定です。仲間と意見や考えを交換・共有しながら、主体的に言語活動に取り組む姿を目指します。

⑧～⑨ 「直江津海岸のゴミ問題を解決するために私たちができること」をALTに提案します(パフォーマンス課題)。

本時のRetellingではICT機器を使って録画・録音し、自分の音声を確認できるようにします。また、生徒は自分の設定した目標に合わせて、語彙や表現を選択したり、伝えたい内容を再び組み立てたりしながら、自己表現に挑戦します。

ポイント3



# 英語 <中越地区／燕市西蒲原郡中教研>

## 「1年：Unit 6,7 My Hero」

研究主題：目的・場面・状況に応じて、自分が言いたいことを適切な表現を用いて伝えることができる生徒の育成

開催日：11月10日（金）

会場校：燕市立吉田中学校

公開：1学級

授業者：北山 舜

指導者：長岡市立旭岡中学校 校長 今泉 祐治 様



研究推進責任者  
燕市立燕中学校

渡邊 義宏



教科・領域担当者  
燕市立吉田中学校

北山 舜

### ・こんな深い学びの姿を目指します・

目的・場面・状況に応じて、自分が言いたいことを適切な表現を用いて伝えることができる生徒の育成を目指します。単元の目標達成に向けて、日々の帯活動で多彩な会話表現を練習・習得し、様々な場面設定での会話活動で使用する機会を増やすことで、臨機応変に表現を使い分けられる生徒の姿を目指します。言語や文化に関して、これまで素朴に認識していたことについて、言語活動を通して、「なるほど！」と新たな気づきを導く学びを目指します。

### ・深い学びにいたるポイント

#### ポイント1

#### 明確な目的・場面・状況の設定

深い学びにいたる単元デザインにするために、目的・場面・状況について、以下を明確にするように設定しています。

- ①目的：どのような新たな気づきをねらうか。
- ②場面：どのような言語活動で新たな気づきをねらうか。
- ③状況：どのような（文化的な）背景に配慮が必要か。

これらを明確にすることにより、言語活動において「見方・考え方」を働かせながら、深い学びにいたるプロセスが保証されると考えます。

#### ポイント2

#### 言語活動につながる対話練習や帯活動

目的・場面・状況に応じて、自分が言いたいことを適切な表現を用いて、その場で伝えることができることが、言語活動を通じた深い学びへのカギであると考えます。対話練習や帯活動がパターン練習に終始せず、練習タスクにより目的・場面・状況を意識した練習段階を踏むことが言語活動に繋がると考えます。

#### ポイント3

#### 生徒の心に火をつける導入

言語や文化に関して、これまで素朴に認識していたことについてズレやギャップを感じさせるような導入が「もっと知りたい」「もっと聞いてみたい」と、生徒の心に火をつけます。そのエネルギーが言語活動における主体的な学びに繋がりを、深い学びを導くと考えます。

## 単元(題材)の様子

① ALTと作成したMy Hero(アメリカで活躍する人物)のインタビュー動画を紹介し、⑭時の言語活動のモデルを示します。また、動画の中でALTから「日本で活躍している人についても知りたい」という発問を提示し、日米で活躍する人物についての「新たな気付き」を促します。

①～③ 三人称単数現在形の文型の導入と並行して、帯活動では、他己紹介で使われるモデル表現を学びます。繰り返し声に出したり、ペアでモデル表現を練習したりすることで、使える表現を増やしていきます。

### ポイント3

1 Hi, how are you?

やあ、元気？

2 Do you live around here?

このあたりに住んでるの？

3 Where do you live?

どこに住んでるの？

4 Wow, It's so far. How do you come to school?

わあ、それは遠いね。どうやって学校に来るの？

5 On foot. My house is near the school.

徒歩だよ。私の家はここから近いんだ。

6 Are you in any clubs?

あなたは何か部団に入ってる？

### ポイント1

1 I'm so-so.

まあまあかな。

2 No, I don't.

いや、もがうよ。

3 I live in Aozu.

翠生園に住んでるんだ。

4 I come to school by bike.

How about you?

自転車に乗って来てよ。あなたは？

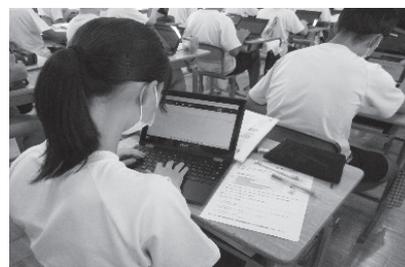
5 I'm jealous!

うらやましいなあ！

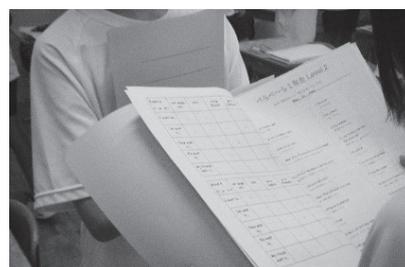
6 Yes, I'm in the brass band.

うん、吹奏楽部に入ってるよ。

④～⑦ 教科書Unit 6の本文「A Speech about My Brother」を読み、朝美のスピーチをモデルにして、帯活動で学んだ表現を使いながら、自分の家族や友達などの身近な人について紹介する文を考えます。



⑧～⑩ 人称代名詞と疑問詞 which, whoseの導入と並行して、帯活動では、今まで学習した疑問詞を復習しながら、第三者について質問する言い方やその答え方を繰り返し練習していきます。



## 研究会

⑪ 教科書Unit 7 Story 1の本文で紹介されるユアン・クレイグさんとダイアン吉日さんの2人について、教科書は読まずに、ペアでどちらかの人物の情報をもち (Information Gap)、帯活動で練習した表現で質疑応答しながら、もう一方の人物について理解します。

この練習タスクと帯活動において、⑭時で行う言語活動の際に活用できる表現を扱うことで、⑭の言語活動へと繋がります。

### ポイント2

⑫～⑬ Unit 7 Story 2とStory 3の内容を読み取ります。

また帯活動では⑦時で書いたMy Heroの原稿をもとにペアで互いに質問し、答え合う練習をします。

⑭ パフォーマンステスト

My Heroをインタビュー形式で紹介する様子をタブレット端末で撮影し、それを評価します。

### ポイント3

# 英語 <新潟地区／新潟市中教研>

## 「3年：I Have a Dream」

研究主題：主体的に学び合う生徒の育成  
～4技能5領域における思考力・判断力・  
表現力を高める指導を通して～

開催日：11月9日（木）  
会場校：新潟市立早通中学校  
開業指者：鈴木 雛琴  
指導者：新潟市教育委員会

副参事（指導主事） 齋藤 まゆみ 様  
新潟市総合教育センター  
指導主事 佐藤 優子 様



研究推進責任者  
新潟市立寄居中学校  
風間 皓介



教科・領域担当者  
新潟市立早通中学校  
鈴木 雛琴

### こんな深い学びの姿を目指します

生徒が習得した言語材料を、コミュニケーションの目的・場面・状況等に応じて活用し、自分の考えを工夫して表現を深めていく姿を目指します。生徒の経験や体験等に準じたコミュニケーションの場面や状況を設定することで、生徒は伝えたい内容と、それに合った言語の整合を図りながら、表現を練り上げていきます。

### 深い学びにいたるポイント

#### ポイント1

#### 逆向き設計による、学習活動の有機的なつながり

単元末に何ができるようになるのか、何を表現するのか、生徒と教師がゴールを共有することにより、授業に臨む姿勢が変わります。

到達目標が明確になると、その目標を達成するために何をすべきか考えるようになり、生徒たちが主体的に学習活動に取り組むようになります。

#### ポイント2

#### 明確な目的・場面・ 状況の設定

生徒が何度も表現を思考し、判断し、表現するためには、習得した教科書の「構成」「内容」「言語」を、相手に伝えたいような状況設定が不可欠です。そのためにも、目の前の生徒の実態に応じて、教科書本文の内容をアレンジし、コミュニケーションの明確な目的・場面・状況を設定します。こうすることで、生徒は経験や体験を想起しながら、主体的に伝えたいことを表現しようとします。

#### ポイント3

#### ICTの活用

タブレット端末を活用し、指導者用デジタル教科書の「デジタル教材」と、学習アプリ「ロイロノート」を有機的に組み合わせ、教科書本文のコミュニケーションの目的・場面・状況等を、生徒の実態に合わせて、新たにアレンジします。

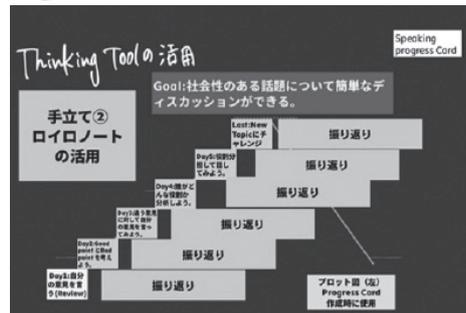
さらにタブレット端末の「共有機能」「閲覧機能」等を活用することで、生徒たちが容易に、級友と表現を共有したり、練り上げたりすることができます。

# 単元(題材)の様子(1年目の実践を踏まえて)

## (1) 単元のゴールを学習アプリや単元カードで共有

単元の導入部の授業で、生徒と単元のゴールまでの見通しや学習内容を共有します。「ロイロノート」のシンキングツールを活用することで、教師間、生徒と教師間で単元計画を容易に共有でき、「指導と評価の一体化」の充実も図ることができます。

### ポイント1



## (2) 教科書の本文をモデルとして活用

教科書の本文を、生徒の実態に応じてアレンジし、生徒に提示します。生徒がコミュニケーションを成功させるために、どのような「構成」「内容」「言語」を用いればいいか教科書の表現をモデルとして活用できるようにします。

本単元の Lesson 5 では、歴史資料館での写真が伝える事実について、相手と会話を展開する場面を、修学旅行や学校行事などの場面と関連付け、生徒が理解し、活用しやすいモデルとして提示します。



### ポイント2

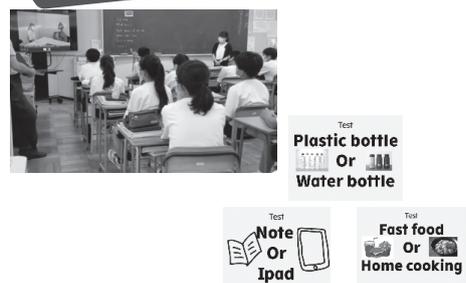


## (3) 明確な目的・場面・状況の設定

モデル文を習得した後に、明確な目的・場面・状況を設定し、生徒の経験や体験等を基に、一人ひとりの生徒独自の豊かな表現を引き出すようにします。

1年次の新潟市立鳥屋野中学校の実践では、Discussionのやり取りのモデルを生徒の日常場面で活用させる状況設定をしました。新潟市立黒埼中学校の実践では、小学校外国語活動のつながりを意識し、1年生が身の回りのものを紹介するモデルを基に、生徒のお気に入りのキャラクターをクイズで紹介し合うという状況設定をしました。

### ポイント3



## (4) 指導者用デジタル教科書と学習アプリを有機的に組み合わせ

英語が苦手な生徒でも取り組めるように、生徒が伝えたい内容に合わせて、デジタル教材や「ロイロノート」を組み合わせて作成したモデルの単語や語句を入れ替え、自己表現できるように「足場掛け」の工夫をします。

## 研究会

本単元では、単元末課題として、黒人差別に関する意見文を英語で書く課題を設定します。

生徒が本単元の題材及びその内容に興味・関心を持ち、主体的に課題に取り組むことができるよう、単元導入時に黒人差別に関する様々な資料を提示します。また、単元終了時に意見文を構築しやすくなるよう、各Partの学習で、その内容を整理し、黒人差別に関する資料の描写や自分の考えや感想を加えたミニレポート(2~4文)を書く活動を位置付けます。

そして、単元終了時に積み上げてきたレポートをまとめ、自分の意見や考えを再構築したり、より適切な表現を選択したりしながら、黒人差別についての意見文を築き上げる場を設定し、最後に完成した意見文をグループや学級で互いに発表し合います。

公開する授業では、GET Part 1の内容について各自が資料の描写をする文章を書く活動を行います。

# 英語 <下越地区／村上市岩船郡中教研>

## 「2年：Live Life in True Harmony」

研究主題：生徒の主体性を育み、見方・考え方に着目した授業の創造 ～生徒が生き生きと思いを伝え合う授業～

開催日：11月16日（木）

会場校：関川村立関川中学校

公開：1学級

授業者：曾川 信行

指導者：県立教育センター

副参事（指導主事） 下村 恵美 様



研究推進責任者  
村上市立荒川中学校

中山 えり子



教科・領域担当者  
関川村立関川中学校

曾川 信行

### ・こんな深い学びの姿を目指します・

ゴールのパフォーマンステストにおいて、「伝わった」「分かった」という実感や達成感を得るために、見通しをもって学習に取り組んでいる姿を目指します。さらに、既習事項を応用し、自分の姿を客観的に確認しつつ、教師とまたは生徒間でやり取りし、協働学習の中で課題解決に向けて生き生きと思いを伝え合う生徒の姿を目指します。

### ・深い学びにいたるポイント

#### ポイント1

#### 単元のゴールと学習計画の共有

単元導入のガイダンスにおいて、生徒と目標やルーブリックおよび学習計画を共有します。そうすることで、生徒は自分のゴールの姿をイメージし、見通しをもちながら学習に取り組むことができます。

また、単元課題の設定に関しては、学級の学習の雰囲気や生徒の興味・関心を考慮し、生徒がより「伝えたい」「話したい」という思いをもって、主体的に学習に取り組めるように工夫し、目的意識を明確にします。

#### ポイント2

#### 教科書をベースにしたインプット

教科書本文を生かしながら、帯活動やQ&Aなどで基礎的・基本的な表現を定着させます。即興的なやり取りの際に活用できる表現を蓄積・向上させます。

#### ポイント3

#### ICTの活用

タブレット端末を活用し、個に応じた学習支援を行います。音読練習、資料収集、課題や情報の提供、発表や振り返り、話し合いのツールとしての利用が可能です。モニタリングやフィードバックも効果的なタイミングで行えます。

## 単元(題材)の様子

- ① 単元の始めに単元ガイダンスを実施し、単元の目標とルーブリックを生徒と教師が共有します。今回は「自分の『推し』をみんなに好きになってもらおう」という目標のもと、それぞれの生徒が自身のゴールの姿をイメージし、様々な人物やもの、場所、イベントの魅力を探ねたり、紹介したりする活動に取り組みます。

### ポイント1



### ポイント2

- ①～② 教科書のスキットをもとに、受け身を用いて人物やものなどを紹介する言い方を学習します。帯学習の Picture Describing や Q&A を通じて、言語活動に必要なやり取りの表現を学んでいきます。
- ③～⑥ 帯活動で学んだ表現を使いながら、教科書本文の登場人物や出来事を紹介し、自分の考えを伝え合います。そこでの学びを、様々な人物やもの、場所、イベントについて紹介し合う活動につなげていきます。

- ⑦～⑨ タブレットPCのスライド機能を活用し、ALTや級友に画像を見せながら対話をしたり、録画機能を使ってやり取りの様子を撮影したりします。録画した動画で、生徒は自分のパフォーマンスをモニタリングします。また、教師に提出することで、表現方法についてアドバイスを受けたたり、「言いたくても言えなかったこと」や他の生徒の優れた表現を共有したりできます。

### ポイント3



## 研究会

- ⑦ 研究会では、「自分の『推し』を友達にも好きになってもらおう」というねらいのもとペア活動を行います。それぞれの生徒が、自分が好きな人物やもの、場所、イベント等から一つを「推し」として選び、パートナーも「推し」が好きになるように、その魅力について、語り合います。パートナーが質問したり、自分の意見を述べたりし、それに対応することで、即興的に会話を継続します。
- ⑧～⑨ ペアでの活動の後、「言いたくても言えなかったこと」や他の生徒の優れた表現の共有を行い、一旦英文にまとめます。後日、「ALTとお互いの『推し』を共有する」という最終目標のため、ALTとの1対1の対話を行います。